

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 篠崎 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

##### 教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問紙調査

##### 生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

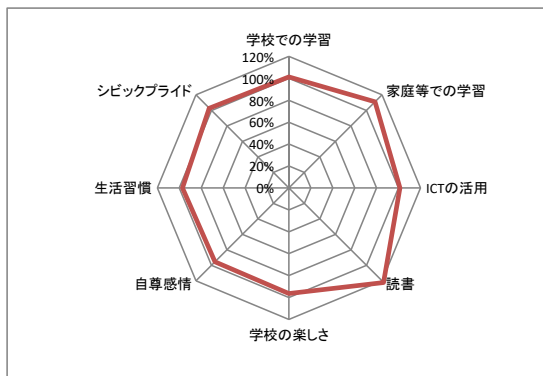
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	各領域において、自分の考えをもったり、それを表現したりする「考えの形成」や「共有」に関する問題では全国平均を上回っている。一方で、話の構造を理解したり内容を把握したりする問題を苦手とする生徒が多い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の思考力・判断力・表現力等で、文章における表現の効果を考えることや、文章を読んで自分の考えを広げるなどの「考えの形成」に関する問題で全校平均を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	「言葉の特徴や使い方に関する事項」において漢字を正しく書く問題や「情報の扱い方に関する事項」において情報と情報の関係を理解する問題で全国平均を下回っている。知識・技能を確実に身に付ける必要がある。	

数学	全体的な傾向や特徴など	「数と式」、「データの活用」の領域における思考力・判断力・表現力を問う記述式の問題で全国平均を大きく上回っている。一方で、「図形」の領域における証明に関する問題で全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「数と式」の領域における事柄が成り立つ理由を説明する問題と、「データの活用」の領域におけるデータの分布を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題で、全国平均を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	「図形」の領域におけるある事柄が成り立つ、または成り立たない理由を読み取ったり、証明したりする問題を苦手とする生徒が多い。基礎・基本の定着と、活用力の向上が課題である。	

英語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っており、特に記述式の問題を苦手とする生徒が多い。基礎・基本を定着させられるように指導していきたい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する」の問題は全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	日常的・社会的な話題について自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題は全国平均をかなり下回っている。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>・学校での学習において「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」</p> <p>「授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていた」との間に対して全国平均を大きく上回っていることから、協同学習や授業ユニバーサルデザインに取り組んできた成果が表れたと考えられる。</p> <p>・学校での生活において「学校に行くのは楽しいと思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」との間に対して全国平均を大きく下回っていることから、生徒会活動や学校行事の活性化を図り、生徒の行動や発言を教員が細かく肯定的な評価をしていくような取組を行っていく。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」との間に対して全国平均を大きく下回っていることから、学習計画・単元計画を生徒と共有することや振り返り活動の取組を全職員で共通理解し、推進する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習や家庭での生活習慣は安定しているが、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」との間に対して全国平均を大きく下回っており、原因はスマートフォンやSNSの長時間の使用であるとされる。生徒や保護者に、スマートフォンやSNSの正しい使い方について発信する。